

二〇二三年度

適性検査型 入学試験問題

適性検査Ⅰ（五十分）（全六ページ）

〈注意〉

- 一. 試験開始の指示があるまで、この問題冊子・解答用紙を開けてはいけません。
- 二. 解答用紙は二枚です。試験開始の指示と同時に、解答用紙に受験番号と氏名を書きなさい。
- 三. 試験開始後、問題冊子がそろっていないか、印刷がはつきりしないところがあったら、手をあげて試験監督に知らせなさい。
- 四. 解答はすべて解答用紙の指定されたところに書きなさい。
- 五. 記述問題で字数制限がある場合は、句読点・記号も一字として数えなさい。
- 六. 問題文は上下二段になっています。

問題は次のページからです。

一 次の文章1と文章2を読み、あとの問いに答えなさい。

(\*印のついている言葉には本文のあとに「注」があります。)

文章1

小説家は、単に物語を提供するのではなく、小説という表現手段を用いて、その背後にある読者に伝えたいこと、感じて欲しいこと、考えて欲しいことを提供しています。歴史を振り返ることや、望ましい未来のあり方を考察するもの、誤った方向にいきそうな社会に\*警鐘を鳴らす役割のものなどもあります。一九四八年に書かれたジョージ・オーウェルの小説『一九八四』は当時から話題になり、映画化もされました。四八年の数字を入れ替え八四年の未来を舞台にしたお話です。その物語の中で市民は政府によって管理され、政府の方針に疑問を持ったり、反対意見をもったりすることのできない社会になっています。さらには反体制的な本の出版を禁止し、都合の悪いものを焼いてしまう\*焚書も行われていました。

これと同時期にもう一つ未来を描いた小説がありました。オルダス・ハクスリーの『すばらしい新世界』です。こちらで描かれているのは、食料も仕事、娯楽も与えられ、本がなくても気にしない、満ち足りた世界です。

米国のメディア理論家、文化評論家であるニール・ポストマンはこの二つの作品を比較し、①恐ろしい近未来の世界は、後者の方だと指摘しました。なぜでしょうか。

すべてが満ち足りると、思考停止が進むということですか。その先にあるのは、

権力者を無批判に受け入れることで独裁者を生み出し、それが誤った方向へ進む時に、止めるべき人々がいない世界です。

テレビを見たりゲームをしたりするのは簡単で、教わらなくても、幼児でもできます。テレビや映画などの映像、ゲームは、娯楽と快楽を与え、勝手にどんどん進んでいき、疑問に思ったり、深く考えたり、反対意見を持ったりもあまりしないでしよう。一方、本や新聞、雑誌などを読むことは、精神の集中と努力が必要で、時間もかかります。読書を学ぶには相当な量の練習と実践が必要です。しかし本は自分で読むペースを変えることができ、振り返ったり、考えたりするためのメディアとして重要なものです。

『AIの時代を生きる 未来をデザインする創造力と共感力』 美馬のゆり 岩波ジュニア新書 2021年

〔注〕警鐘を鳴らす — 事態が悪い方向へ向かおうとしていることを指摘する。

焚書 — 学問・思想を弾圧するための手段として書物を焼き捨てること。

ポーランド出身の研究者から、日本はとても便利で素晴らしい国ですね、とお褒め（ほ）の言葉をいただいたことがあります。私が褒められたわけではないのですが、日本で生まれ育ったものとして自国が褒められるのは、なんとも嬉（うれ）しいものです。来日する前、その研究者は、日本で暮らすために日本語を覚えねばならぬと思っていたようですが、「来日して10年になるが、日本語を覚えなくて済んでいる」そうです。

\*グローバルゼーションの\*賜物（たまもの）で、世界が均質化され、ほとんどの日本人は英語がしゃべれるから、というわけでもなさそうです。

まず住居。いったん賃貸契約（けいやく）すると、毎月の住居費は口座振替（ふりかえ）かカードから落とされてゆきます。便利ですし日本語を話す必要はありません。

次に買い物。無言でスーパーに入り、欲しいものをカゴに入れてレジまで持つてゆき、無言で支払いをして出てゆくだけで済みます。便利ですし、日本語を話す必要はありません。それどころか、レジでお店の人とお話をしていると、行列の後ろのほうから「早くしろ視線」が飛んできてつらい思いをします。一所懸命（せきめい）に日本語を覚えても、スーパーで値切り交渉（ちせりこうわ）などできません（関西では、一部の家電量販店（りやうはん）で値切り交渉OKなところはありますが）。

近い将来、毎日の食料品でさえスーパーに出向いて買う必要はなく、ネットで通販の時代が来るでしょう。そうになると、ますます日本語を話すことなく暮らせる、便利な国になりそうです。

ところが、逆に、片言の日本語以上に\*スキルアップしたいとの\*モチベーシ

ョンが湧かない、これは案外つまらないものだ、せっかく日本に住んでいるのに、とも言っていました。仕事の選択肢（せんたくし）のうちのひとつとして選んだのがたまたま日本だけであって、何も日本である必要はない、日本に住んでいること自体を楽しみたいのに、「その必要はない」と「便利」が彼（かれ）に言っているのです。

そして\*問わず語りに、ポーランドで民主化が成功する前夜（1980年代）の不便だった思い出を、友人は語り出しました。食料配給にまず早起きのお婆ちゃん（ばあ）が並び、次に学校に行く前の自分が交代し、学校に行く時間頃（じかんころ）にお母さんが交代しに来るのが、毎日の日課だったそうです。今の日本ではあり得ない光景です。効率化最優先の社会では、\*忌避（きひ）すべき状況（じやうきやう）です。ただ、ポーランドの友人は、この状況を嬉（うれ）しそうに語るのです。家族の結束は、この時が一番強かったと。この時は、お婆ちゃんも僕（ぼく）もお母さんも、誰（だれ）一人として家族から欠けてはならない存在だと、みんなが思っていたんだと言っていました。

均質化された「便利」に居心地の悪さを感じるということでしょうか。ポーランドの友人の話は、グローバルゼーションとは表面的には関係ないように見えます。ただ、「誰でも同じように」ということがグローバルゼーションならば、ポーランドにしようが日本にしようが同じように暮らせるのは、グローバルゼーションの賜物（たまもの）と言っても良さそうです。

世界は、同じように均質化されているのが望ましいのでしょうか？ しかし、「せっかく日本に住んでいるのに」という呟（つぶや）きは、その世界は居心地が悪いと言っているように聞こえます。そして、②問わず語りに不便な配給の話を始めたのは、居心地の悪さの反対側に「不便」があると直感したからではないで

しようか。(中略)

世の中は、「便利になるのはいいことだ」という前提で進んでいます。しかし、このままだと「不便だからやらなくてもいいよ」が、「やっちゃいけない」になるかもしれません。たとえば車の自動運転を考えてみます。

「AI(人口知能)はそこまで賢くなれないよ」という意見があることは承知の上で、仮にどのような状況下でも車を運転する、レベル5の完全自動運転が実現したとしましょう。そうになると、道路を効率よく使えるようになるので、たとえば高速道路の車線は今の半分で済むと試算されているようです。しかし、手動と自動が混在すると事故の原因になるので、その高速道路は手動運転が禁止になるでしょう。つまり「運転しなくていいよ」だったはずが「運転してはいけない」になります。全部が他人や機械任せで楽だけど、自分がやることの喜びが奪われます。

この流れはある程度まで進んでしまうと、逆らい難くなります。「みんなが便利になるんだからええやん。自分で運転したいなんてわがままや」と大勢に言われたら、なかなか言い返せないでしょう。だからといって何もかも今のままがいいとか、古き良き時代に戻れというのも無理です。ほかの道はないものでしょうか。

ディズニートピクサーが製作し、2008年に公開された『ML・E(邦題「ウォーリー」)という映画があります。この映画は、近未来を描くCGアニメーションで、そこでは究極の便利ライフが描かれています。人は何もしなくても生きてゆける、という世界です。労働は全てロボットやAIが代替してくれ

ます。やらなくてよい、だらけになっています。

人間の風貌も、動かす必要のない部分は退化しています。足などは、ほとんど退化しています。生活のすべての場面でパーソナルモビリティ(1人乗り用のコンパクトな形の移動支援機器)が利用できるでしょう。または、すでに移動する必要さえなく、生まれた時から同じ場所で生きていけるぐらい便利な社会なのかもしれません。

真偽のほどはわかりませんが、AIに人の仕事が奪われる時代が来るといいます。もし奪われるとしても、逆に仕事をしなくても生きていけるのならいいじゃないかという考えもあります。しかし、本当に「いいじゃないか」でしょうか？

『ML・E』を観ていると、何をやっても意味がない社会が来たら嫌だな、何をやっても無駄だったら嫌だな、と思わされました。つまり、現代は何かをすることに価値がある世界なので良かったね、ということです。

ほかにも色々な小説や映画で便利追求の行き着く先は\*フィクションのネタにされていますが、どうも楽しい世界として描かれないことが多いようです。

③便利を無条件に受け入れた先は、ユートピア(理想郷)のようで、実は新たなタイプのディストピア(反理想郷、暗黒世界)かもしれません。

『不利益のススメ 新しいデザインを求めて』

川上浩司 岩波ジュニア新書 2019年

〔注〕 グローバリゼーション ― 文化活動や経済活動などが国家の枠組みを

超えて世界規模に広がること。グローバル化。

賜物 ― 結果として得たよい事態。

スキルアップ ― 技術力を付けること。腕前うでまえをあげること。

モチベーション ― 物事を行うにあたっての、意欲・やる気。

問わず語り ― 他人から事情をきかれたりしないのに、自分

から話し出すこと。

忌避 ― 嫌きらって避さけること。嫌きらがること。

ピクサー ― 一九八六年に創設されたコンピュータ・グラ

フィクスによる映画製作会社。

風貌 ― 身なりや顔かたちなどの様子。

フィクション ― 作者の想像力で作られた架空かくうの物語。

【問題1】

文章1に①恐ろしい近未来の世界とありますが、『すばらしい新世界』という小説に描かれた未来が、恐ろしいと言える理由を、文章1で使われている言葉を用いて七十字以内で説明しなさい。

【問題2】

文章2に②問わず語りに不便な配給の話が始めたのは、居心地の悪さの反対側に「不便」があると直感したからではないでしょうか。とありますが、それはどのようなことですか。「居心地の悪さの反対側」にある「不便」の内容を明らかにして、百字以上百二十字以内で説明しなさい。

【問題3】

文章2に③便利を無条件に受け入れた先は、ユートピア(理想郷)のようで、実は新たなタイプのディストピア(反理想郷、暗黒世界)かもしれません。とありますが、それはどのようなことですか。次の「手順」と「きまり」にしたがって、三百字以上四百字以内で書きなさい。

〔手順〕 1

「便利を無条件に受け入れた先」が、どのような世界で、それがどのような意味でユートピア(理想郷)のようだと書いている

のか、文章2で使用されている言葉を用いて明らかにする。

2 「便利を無条件に受け入れた先」が「新たなタイプのディストピア(反理想郷、暗黒世界)」かもしれないとは、具体的にどのようなことか、文章2で使用されている言葉を用いて明らかにする。

3 「便利を無条件に受け入れた先」について、現在の便利な状況の具体例を挙げ、自分の考えを書く。

〔きまり〕 ○ 題名は書きません。

○ 最初の行から書き始めます。

○ 各段落の最初の字は一字下げて書きます。

○ 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。

○ 、や。や「なども、それぞれ字数に数えます。、や。が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と続きます。(ますめの下に書いてもかまいません。)

○ 。と「が続く場合には、同じますめに書いてもかまいません。

○ この場合、「」で一字と数えます。

○ 段落をかえたときの残りのますめは、字数として数えます。

○ 最後の段落の残りのますめは、字数として数えません。

○

○